



大和子どもセンターバンビ

#リサイクルショップ

#子育て経験者

どんな活動をしていますか？

0歳から3歳のこどもとその保護者を対象にした子育て支援施設「大和子どもセンターバンビ」を運営しています。毎月およそ200組の親子が訪れ、施設に置いてあるおもちゃで遊ぶなどして自由に過ごしていただき、私たちは様子を見ながら適宜話しかけたりしています。

毎月第1・第3火曜日は、お母さん同士が気軽に交流できる「ママカフェ」を開催。第2・第4火曜日はレジンのキーホルダーやちりめん小物などを作る「workday」で、お母さんが制作している間、こどもたちは私たちスタッフと一緒に遊ぶので、安心して自分の時間を楽しむことができます。

施設内にはリサイクルショップもあり、利用者から寄付されたこども服やおもちゃなどを置いています。値段は1着10円から。売上は、施設で使う

おもちゃなどの購入費に充てています。バンビを卒業した後も寄付して下さるなど、皆さんの協力がなければできないことですので、大変ありがたいと思っています。

活動を始めたきっかけは？

子どもセンターバンビは2011年9月にオープンし、当初は不定期の開館でした。「こどもといつでも気軽に行ける場所がほしい」という育児中のママたちの声をきっかけに、保育園の園長経験者を中心とした子育て支援団体「バンビの森」を結成し、市との調整を経て、2016年9月から施設運営を担うことになりました。

私も初期から携わり、地域に必要なこの場所を守り続けています。

活動への思いは？

私のこどもが幼いときは、こどもを連れてママ友同士で家

を行き来することがよくありましたが、コロナ禍を経て、そのハードルが以前より上がったように感じます。

だからこそ、対象年齢の親子であれば誰でも来ていいこの場所で、何気ない会話をしながらのんびりと過ごしてほしいです。

スタッフの中には保育士資格を持つ者もありますが、子育ての専門家としてではなく、身近な子育て経験者としてゆるやかに関わることを大切にしています。育児中の方々がいつでも気軽に利用し憩える場所作りを、自分たちのできる範囲で続けていきたいと思っています。



#元保育士

#元地域おこし協力隊

みのっ子村

どんな活動をしていますか？

こどもたちが安心して過ごせる居場所づくりを目的に、月に2回ほど活動しています。活動は、料理を作って一緒に食べる「こどもto食堂」、物づくりやお絵かきなど自由に遊ぶ「プレーパーク」、宿題をする「寺子屋」の3つを組み合わせで行っています。活動の情報は、Instagram「みのっ子繋がりプロジェクト」で発信しています。

大切にしていることは、大人が何かしてあげるのではなく、こどもの自主性を育むこと。料理は一緒に作り、遊びも自分がやりたいことを選びます。

活動場所は美濃小学校区域を中心に、愛宕山や道の駅などさまざま。道の駅で売っている地元野菜を使ってカレーを作ったり、森林文化アカデミーの卒業生と木のブランコを作ったりしたこともあります。また、地元の武義高校の生徒が授業の一環で参加し、こどもたちに

勉強を教えるなど、異年齢で交流できる場にもなっています。美濃で過ごした楽しい経験が、将来暮らす場の選択肢につながるよう活動しています。

活動を始めたきっかけは？

活動を立ち上げたのは、美濃市地域おこし協力隊に所属していた頃、家や学校ではないこどもの「第三の居場所」をつくりたいと思ったことがきっかけです。そして、森林文化アカデミーの卒業生や元保育士たちと共に、2023年9月に「みのっ子村」を開設。開設にあたって、道の駅や地域のお寺からの食材や開催場所の提供など、たくさんの地域の方々からご協力いただきました。当日もさまざまな方がスタッフとして参加し、地域のつながりのお陰で続けることができました。

活動への思いは？

こどもたちと定期的に顔を合

わせることで、少しずつ心を開いて自分の気持ちを話してくれるようになったと感じます。みのっ子村が、こどもたちにとっての居場所になっていることがうれしいですね。

スタッフもこどもたちとの触れ合いを通じて、穏やかな気持ちになれています。私は現在、裏方としてスタッフを支えています。将来的には、活動に興味を持つ人や、高校生が主体となって運営していければと思っています。

支援を始めたいと思っている方に一言お願いします。

まずは、できることから少しずつ始めてみてください。そして、参加してくれた人たちの声に耳を傾けることが大事です。また、誰かのために自分が頑張るすぎると疲弊してしまいます。自分自身も含めてみんなでハッピーになれることを気軽に考えてみてください。

小椋唯さん



この支援に関わりたい！

主な活動場所 郡上市大和町剣82-1

問い合わせ 子育て支援団体バンビの森 TEL:0575-88-3777

支援のカタチ

大和子どもセンターバンビや、バンビ内にあるリサイクルショップの運営



この支援に関わりたい！

主な活動場所 美濃小学校区域を中心に活動

問い合わせ 代表：小椋唯さん TEL:090-6616-2451

支援のカタチ

こども食堂/プレーパーク/学習支援/居場所づくり

てらこや文殊堂

#元会社員

#学生ボランティア

どんな活動をしていますか？

佐藤さん 関市の広福寺境内にある無償学習支援教室で、ひとり親家庭の小中学生の学習サポートをしています。関市からの委託を受け、私が理事長を務めるNPO法人・子援隊が運営しています。

教員OBをはじめ、定年後の時間を活かす地域のボランティアや、大学生、高校生など多様なスタッフが力を合わせています。毎週2回、午後7時～午後9時までサポート。一人一人に指導者がつき、個別に寄り添うスタイルです。教室には必要な教材をそろえ、休憩時間にはちょっとした軽食を提供しています。

活動を始めたきっかけは？

今から12年前の定年退職をきっかけに、関市まちづくり協議会の活動に参加したことが始まりでした。提言しても、ほとんどが実行につながらない中で、2017年に4回目となる提言の

テーマとして選んだのが、貧困に悩む子どもたちへの支援でした。全ての子どもに夢と希望を持ってもらいたいと考え、教育支援を中心にまとめました。

当初は夏休みの4日間、宿題を見たり、工作教室を開いたりして活動をスタート。市の予算や寄付金を得て実施するものの、市民ボランティアだけで継続するには限界があると感じました。そこで市長に学習支援教室の必要性を訴えたところ、市から「仕組みを考えてほしい」と求められ、構成案を提出。その後、市から正式に依頼され、17年の8月に今の活動が始まりました。

活動への思いは？

子どもたちが楽しく学習できるように、高校進学までしっかりサポートします。

ボランティアで勉強を教えられるスタッフや、地元企業からの寄付によって教材や軽食が

まかなえており、本当に感謝しています。また、大学生や高校生の学生ボランティアが参加してくれるのもうれしいです。

中学生に教えている現役高校生の後藤さん。

活動へのやりがいは？

後藤さん てらこや教室で活動していた姉に誘われ、私も携わるようになりました。年齢が近いので、勉強だけでなく、学校での出来事についても話せるので楽しいです。

支援を始めたいと思っている方に一言お願いします。

佐藤さん 少人数でもいいので、できる範囲でスタートすればいいと思います。私たちがノウハウを伝えることもできます。

この活動を続けていると、保護者から「子どもが志望高校に受かった」と喜んでもらえます。その言葉をもらえるだけで、続けてきて良かったと思えますね。

#ボランティアスタッフ

#地域コミュニケーション

おもちゃ図書館はっぴー

どんな活動をしていますか？

月に2回、就学前の子どもを対象に、保護者と一緒におもちゃで遊べる場として「おもちゃ図書館」を開いています。その様子をボランティアスタッフが見守る形で活動を続けています。

おもちゃの貸し出しもしていて、スタッフお手製の手提げ袋や風呂敷で貸し出しするサービスもしています。

スタッフは基本的に親子で遊んでいる様子を見守りますが、保護者の方の様子がおかしいなど感じたときはさりげなく声を掛けて、悩みを聴くなどのコミュニケーションも大切にしています。

さらに、壊れたおもちゃを無料で修理する「おもちゃ病院」も併設しており、おもちゃを修理する専門医が活動しています。

活動を始めたきっかけは？

おもちゃ図書館は2009年に

始まりました。当時、坂祝町には子どもが安心して遊べる場所が少なく感じており、そうした場をつくりたいという思いから活動を立ち上げました。犬山市で同様の活動が行われていることを知り、見学に行き参考しながら現在の活動に至っています。

また、おもちゃで遊ぶことを通じて物を大切にする気持ちを育むとともに、この場を通じて、親子のつながりを深めてほしいという思いもありました。

活動への思いは？

夫の仕事の都合で坂祝町に引っ越してきて、新たな土地で友人を作りたいと思い、さまざまなボランティア活動に携わってきました。今、一緒に活動しているスタッフのみなさんとも他のボランティア活動を通じて知り合いました。

ここで活動をしていると、地域の親子の情報や状況も把握

でき、子育てなどの悩みも共有できます。おもちゃ図書館で遊ぶ親子が楽しそうだとこちらもうれしくなり、やりがいを感じます。

それに、子どもたちと触れ合うこと自体が楽しく、「今日はおもちゃ図書館の日だ」と前向きな気持ちで活動に向かっています。この場を利用していた子どもが高校生になり、「昔ここで遊んでました」と言われると感慨深いですね。

支援を始めたいと思っている方に一言お願いします。

この活動は本当に楽しいです。だからこそ、興味のある人には「一緒にやろうよ」と誘っています。年齢は関係ありません。中学生や高校生が見学に来てくれたこともあります。

壁を作らず、さまざまな人と関われる場でありたいです。



●この支援に関わりたい！

主な活動場所 関市東日吉34 広福寺境内「文殊堂」
問い合わせ 佐藤 隆一 TEL:090-7605-4100

●支援のカタチ

ひとり親家庭の子どもを対象とした学習支援塾・子ども食堂・居場所づくりなど



●この支援に関わりたい！

主な活動場所 加茂郡坂祝町黒岩153-1 総合福祉会館サンライフさかほぎ内
問い合わせ 坂祝町社会福祉協議会地域福祉課 0574-27-1222

●支援のカタチ

地域の就学前の子どもとその家族へ、おもちゃの貸出や遊び場の提供